

圓谷昂史<sup>1</sup>・鈴木明彦<sup>2</sup>：北海道泊村堀株海岸におけるココヤシの漂着Takafumi ENYA<sup>1</sup> and Akihiko SUZUKI<sup>2</sup>：Stranding record of *Cocos nucifera* L., on Horikappu beach of Tomari Village, Hokkaido

2020年11月1日、北海道日本海側に位置する古宇郡泊村堀株海岸でココヤシ *Cocos nucifera* L. を発見した。北海道におけるココヤシの漂着は、日本海沿岸や太平洋沿岸の各地で報告されている（例えば、中西 1999；石川 2007；志賀・伊藤 2008；圓谷・鈴木 2014；鈴木 2016；土屋 2016）。しかし、本地点におけるココヤシの漂着は、今回が初めてとなるのでここに報告する。

堀株海岸（北緯43°01′52″，東経140°31′30″）は、泊村の南部に位置する外洋性の砂浜海岸である（Fig. 1）。今回発見したココヤシは、汀線からやや内陸側で多数の人工物と共に打ち上がっていた。計測値は、長さ215mm，最大幅138mm，最小幅119mmであり，やや細長い形状を示す（Fig. 2）。外果皮の多くは剥落し，繊維状の中果皮が露出するものの，3本の稜を確認することができる。果皮には，殻長数mm程度のエボシガイ *Lepas anatifera* の幼体が多数付着しており，同サイズのヒメイガイ *Septifer keenae* の幼貝も確認される。一方，表面には直径1mm程度の穿孔痕が多数存在するものの，穿孔貝は認められなかった。なお，本試料には，人為的な切断面などは確認されない。

2005年以降，北海道各地では，南方系の果実や種子が多数発見されている（鈴木 2016）。海流散布植物の1つであるココヤシは，大型で比較的認知度が高く，一般人の目にもつきやすいため興味・関心を惹く素材となる。今後は，ココヤシを目印としつつ，海流散布植物の漂着記録の乏しい地域でも調査を行うことで，新たなデータの蓄積が望まれる。

**謝辞：**本研究では，日本学術振興会科学研究費（若手研究19K13427，基盤研究(C)19K03107）を使用した。

## 引用文献

- 圓谷昂史・鈴木明彦 2014. 北海道室蘭市トッカリシヨ海岸におけるココヤシの漂着. 漂着物学会誌 12 : 58.  
 石川慎也 2007. 北海道えりも町百人浜の漂着種子と果実. えりも研究 4 : 9-12.  
 中西弘樹 1999. 漂着物学入門 黒潮のメッセージを読む. 212pp. 平凡社, 東京.  
 志賀健司・伊藤静孝 2008. 2007年に北海道石狩湾沿岸で見られた暖流系漂着物. 漂着物学会誌 6 : 11-16.  
 鈴木明彦 2016. 北海道の海辺を歩く ビーチコーミング学入門. 120pp. 中西出版, 北海道.  
 土屋慶丞 2016. 釧路市知人浜に漂着したココヤシ. 漂着物学会誌 14 : 49.

(Received Aug. 5, 2021; accepted Aug. 27, 2021)

<sup>1</sup>〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館

<sup>1</sup>Hokkaido Museum, 53-2 Konopporo, Atsubetsu-cho, Atsubetsu-ku, Sapporo 004-0006, Japan

<sup>2</sup>〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校地学研究室

<sup>2</sup>Department of Earth Science, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education, 5-3-1 Ainosato, Kita-ku, Sapporo 002-8502, Japan